

Q 本町の農業を守り育てるには

A 今後も成長を続けられるよう守っていく

Q 定住・子育て支援施策の将来展望は

A 町民の満足度が町外にも広がるよう取り組む

Q 子供の愛郷心を育む教育を

A 引き続き郷土愛を育む教育を実施していく

白石 昇 議員

**本町の農業を
守り育てるには**



質問 安倍首相を議長とする産業競争力会議において、成長戦略の進化のための今後の検討方針が示された。
TPP対策では、これまでの所得補償が廃止されることになり、これに変わる収入保険の制度では補償につながらない懸念がある。
基幹産業である農業の成長なくして町の今後の発展は望めない。
本町の農業を守り育てるといつ、町長の決意を伺う。

町長 本町は、平成24年にピネ農業公社を設立し、農地の利用集積や利用調整、後継者など担い手の育成、生産性の向上などに努めており、また、農作業の省力化と効率化が図られる無人ヘリコプターの免許取得経費の助成、農作物の不作が深刻な年には種もみ代の助成など、独自の支援策にも取り組んできた。

TPPについては、まだ不透明な部分があり、国では農業経営安定対策などの制度の見直しが続いているので、将来に対する農業関係者の不安は理解している。

町としては、町村会や農業関係団体と連携を図り、農業者が安定して農業を継続できるように、経営安定対策、体質強化などの助成制度の見直し及び充実について、国等に対し強く訴えていく。

私も農業の成長なくして、町の発展はないとの考えであるので、今後も本町の農業が着実に成長を続けられるよう、しっかりと守っていく。

**定住・子育て支援
施策の将来展望は**

質問 新十津川町総合戦略に掲げた定住及び子育て支援が実を結び、住んで良かったと言われる町になる将来への展望について、改めて町長の決意を伺う。

町長 戦略には、人口減少の抑制と子育て環境の充実、地域の活性化を大きな柱に掲げ、新年度予算の編成に当たった。

新年度予算は、将来に向けて町を存続させるための私の決意の表れで、今までの取組みを継続しつつ、「子育て支援と教育の充実した町」を全面的にアピールする予算とした。

町民の皆様の「住んで良かった」という思いが、町外の方々に広く伝わり、「住んでみたい町」となるようにすることで、人口減少の抑制に全力で取り組んでいきたい。

小玉博崇 議員

愛郷心を育む教育を



質問 日本や世界の舞台で活躍する子供の教育も大切であるが、子供たちが町に愛着を持ち、育った町で活躍する人材を育成することも教育の大切な目標とすべき。
今の子供たちが愛郷心を育むための教育の取組みについて伺う。

教育長 郷土を愛する心を育む取組みとして、行事での校歌斉唱、社会科副読本で町の歴史や産業を知ることや、農業高校、土地改良区、ライオンズクラブなどの協力による農業体験学習や、地元食材による給食提供などを行い、郷土愛を育む教育を実施していく。